

再生材のコンテナ輸送に効果

日本アスファルト合材協会（今泉保彦会長）は、アスファルトガラ（アスガラ）やコンク



受入側工場での荷下ろし

リートガラ（コンガラ）由来の再生資材を貨物鉄道で広域融通する実証試験を終え、大量輸送が可能なコンテナ貨物の効果を確認した。

9日から11日にかけて行った2回目の実証では、アスガラ由来の再生骨材5ト（フレキシブルコンテナバック5袋）をJR貨物のコンテナ1基に積載し、日本通運の「コンテナ輸送お試し制度」を活用して、砂町アスコン東京合材工場（東京都江東区）から三共建設アスファルト合材工場（北九州市）に運搬した。今回はパレットを使用せず、クレーン機能付きバックホーでつり上げ・下ろしを行ったが、

日合協

全行程を滞りなく完了できたという。

日合協によると、コンテナ貨物は1編成当たり最大650トを輸送でき、再生骨材30%配合の再生アスファルト合材に当てはめると約2170トの製造量に相当する。再生材が過剰な都市部から不足している地方に向けて、貨物鉄道で大量供給することで、全国レベルでの需給バランスの改善に役立つと期待されている。

日合協は今後、実証試験の成果を踏まえ、▽再生砕石の広域

計2回実証試験を完了

供給に向けた鉄道輸送ネットワークの構築と公的補助制度の整備▽アスガラ・コンガラの発生量に見合った公共工事・事業発注による再生砕石活用の促進▽保管限度超過の恐れがある余剰な再生砕石の埋め立て処分場への持ち込みを可能とする制度の整備――の3点を関係各所に要望していく方針だ。

間もなく閉幕する大阪・関西万博でも、解体工事に伴い67万トのがれき類が発生すると推計され、対応が急務になっているという。日合協は、都市部であふれるアスガラ・コンガラ対策は、全国規模でのゼロエミッション実現の一端を担う喫緊の課題と指摘している。